

# 校長室だより 第13号

平成28年12月22日

校長 瀧 俊彰

いよいよ二学期も終業式を迎えることになりました。先生がいつも話すことを覚えてくれているでしょうか？「葛城中学校の主役は生徒である」という話です。行事面においては、文化祭、合唱コンクールの学校全体の大きな行事や2年生の職場体験学習などの学年での取り組みなどたくさんありました。どの行事も素晴らしい成果を上げてくれ、良い思い出を作り、達成感や所属感がより強くなったことと思います。どの行事でも生徒の皆さんの真剣で生き生きとした表情が印象的でした。生徒の皆さんが立派に主役をつとめてくれました。学習面においては班活動を授業に活用する取り組みを行っています。まだまだ十分ではありませんが生徒の意識は高くなっていると感じます。これからの葛城中学校の授業スタイルを確立していきたいものです。

さて、一学期と二学期の生活の中で大きな変化がありました。それは給食の実施です。9月からの実施でいくつか心配することもありました



が全体的にスムーズに運び、一番心配された

時間もだんだんと短縮されてきました。「慣れ」の結果であると思います。給食の準備と片付けに配膳室に行きますが、当番が全員そろって声をかける「いただきます」はとても気持ちのいいものです。そして片付け

けるときに配膳員さんに「ごちそうさまです」とかける声にはほのぼのとした温かみを感じます。当たり前のことではありますが大切なことですね。また、「慣れ」が「ダレ」になっている部分もあります。最近エプロン・マスク・三角巾の三点セットの忘れ物が目立ちます。1月からまたきちっとしていきましょう。

今年もあとわずかとなりました。あわただしい年の瀬ですが、年末年始は今年度を省みて、新しい年への希望を持つ時期であると思います。保護者や地域の皆様のご支援ご協力に心から感謝申し上げますとともに、皆様にとって平成29年が素晴らしい年となるようお祈りいたします。

